

誰一人取り残さないための学力向上アクションプラン

令和7年5月1日現在 江戸川区立下鎌田小学校

全国学力・学習状況調査 A・B層の割合(都基準)			令和6年度江戸川区学力調査結果 A・B層の割合(全国基準)		
年度	国語	算数	学年	国語	算数
令和8年度の目標	61.0%	64.0%	第3学年	51.3%	46.1%
令和7年度の目標	47.0%	51.0%	第4学年	57.8%	60.7%
令和6年度の結果	66.1%	47.9%	第5学年	43.9%	47.7%
令和5年度の結果	46.8%	56.1%	第6学年	52.8%	46.4%



目標達成に向けた取組			
	教員の指導力向上	基礎学力の保障	学習習慣の確立
学校全体の取組	- 算数科の校内研究(テーマ:考えることを楽しむ児童の育成―「分かった」「できた」と実感できる授業づくりを目指して―)を年6回実施する。 - 主任教諭を講師としたOJTを教員全員を対象に、実際の教育課題等をテーマに年12回を実施する。	- 今年度より、学力向上部を設置し、月次で学力向上についての目標、取組、進捗、振り返り等の確認を行う。 - 週に1〜2回、朝学習の時間を算数タイムとして設定し、基礎的な知識・技能や思考力・判断力・表現力等を継続的に向上させられるようにする。 - よむYOMUワークシート担当を設け、担当を中心にワークシートの効果的な使い方を組織で共有する。	家庭学習を学年+10分することを経営方針の一つとして、児童・保護者に働きかける。
特に支援が必要な児童・生徒への手だて	- 特別支援教室拠点校として、巡回教員と随時連携し、必要な支援を共有する。 - 特別支援教育に関する見識をもった専門家を招聘し、研修を行う。	- 定着度調査による学習カルテを活用し、一人一人が自らの課題を把握し、それを基に自己調整を図りながら学べるようにする。 - ドリルパークの有効な活用方法を組織内で共有し、児童自らが課題を見だし、主体的に課題に取り組めるようにする。	左記と同様、一人一人が自身の課題を把握した上で、それを基に自己調整を図りながら家庭学習をできるようにする。
成果指標	- 区学力調査の平均正答率で、全国平均との差を昨年度比+2%増 12月の児童アンケートで「算数の授業(じゅぎょう)のないようはよくわかりますか。」の質問に対して「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」を選んだ割合を昨年度比3%増(昨年度91%)	年度末東京ベーシックの平均得点率、1・2年90%、3年85%、4・5・6年70%	12月の児童アンケートで「学年+10分の家庭学習をしていますか。」の質問に対して「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」を選んだ割合を昨年度比3%増(昨年度76%) 12月の児童アンケートで「家で自分で計画を立てて、工夫(くふう)して勉強をしていますか。」の質問に「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」を選んだ割合を昨年度比3%増(昨年度80%)